

平成26年度 維新小学校 学校評価書 別紙

(A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない)

学校経営目標 (プロジェクト)	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	評価		
1 確かな学力の育成 ・授業力向上 ・校内研究の充実 (英語・算数) ・家庭学習の定着	・「思考力・表現力を育てる授業づくり」という研究主題のもと、校内研究を充実するようにする。 ・家庭での学習習慣が定着するようにする。	・「授業は分かりやすい。」という回答が90%以上である。 (児童・保護者アンケート) ・CRT 学力検査(算数)で平均得点率が上がる。(得点率) ・家庭学習の目標時間である(学年×10+10)分以上学習している児童が80%以上である。 (児童・保護者アンケート)	研究授業については、年間計画を立て、順次実践している。アンケート調査の結果では、「授業が分かりやすい」と回答した児童は83%であった。また、「子どもは授業が分かりやすいと言っている」という項目に対し、肯定的な回答をした保護者は95%であった。以上のことから、概ね達成しているが、授業が難しいと感じている児童も若干いることが分かった。家庭学習を(学年×10+10)分以上している」というアンケート項目に関しては児童の61%、保護者の72%ができていますと回答している。家庭学習の時間の確保については改善していく必要がある。	B	より分かりやすい授業をしていくために、今後も校内研究を通して教員の指導力向上を図る。 また、アンケート調査や日々の授業の様子から、学習に困難を感じている児童を把握し、どの部分に困難を感じているのか分析する。分析した結果を生かして、授業を改善したり個別の支援に生かしたりしていく。 家庭学習の時間の確保に関しては、実態調査の結果から、宿題の出し方や自主学習のあり方を見直し、改善していく。	・学校の設定している達成基準が少し高いように思われる。「分かりやすい授業」がすべてではなく、分かりにくければ自分で苦労しながら学ぶことも大切である(何でもパソコンで簡単に調べられることをよしとしない。) ・家庭学習の環境整備に保護者が努めることが必要である。
2 健やかな体づくりの推進 ・業間遊び、業間運動の充実 ・基本的な生活習慣の確立	・健康の保持増進・体力向上を図るために、業間遊びや業間運動を充実させる。 ・児童の基本的な生活習慣の確立に向けて、きらり☆カードの取組を充実させる。	・「業間には、外でいろいろな遊びをするようにしている。」という回答を80%以上にする。(児童アンケート) ・きらり☆カードの取組による達成数値8割以上の児童を90%以上にする。(きらり☆カード)	アンケート調査の結果、「業間には外でいろいろな遊びをするようにしている。」と回答した児童は65%で目標数値を下回った。業間運動については、『がんばりカード』を活用することで児童の意欲向上が図れているように思う。また、季節に応じ、サーキットトレーニングや縄跳び、持久走などにも取り組み、体力テストのいくつかの項目については向上が見られた。自由遊びについては遊びが固定化されており、魅力ある遊びの提案ができていない。 6月と10月に実施した『きらり☆カード』では、達成数値8割以上の児童は60%であった。特に高学年の児童は達成数値8割以上の児童が27%にとどまっており、就寝時刻が遅いなど、よい生活習慣を身に付けることができているとは言い難い。	C	業間運動については、体力テストの結果において低いものを中心に、新たな運動を提案・実行していく。 自由遊びについては、子ども達にとって魅力ある遊びを提案していく。 今後も『きらり☆カード』の取組を進めていくとともに、保護者に対しても啓発を行っていく。 就寝時刻の遅い児童には、個別に声掛けをする。	・業間休みには、児童の興味関心も加味して、外遊びをしたくなる工夫をしたらいいのではないかと。 ・児童には、自分の目標を持って運動に取り組むことができるようにしてほしい。 ・保護者が参加しやすい日に外部講師を招いて講演会を行うなど、基本的な生活習慣の定着(テレビ視聴やゲームの時間、就寝時刻等)に向けて家庭に働きかけるのも一つの方法である。
3 心の教育の充実 ・品格教育の継続、推進	・品格教育を継続・推進し、重点目標として「あいさつでまわりとつながろうとする子」「思いやりの心をもって、だれとでも仲良くしようとする子」の育成を目指して、家庭や地域との連携を図って指導する。	・「あいさつがよくできている。」という回答が80%以上である。 (児童・保護者・教職員アンケート) ・「友達の気持ちを考えて行動している。」という回答が80%以上である。 (児童・保護者・教職員アンケート) ・「学校に行くのが楽しい。」という回答が80%以上である。 (児童・保護者・教職員アンケート)	アンケート調査では、「あいさつがよくできる」と回答した児童は91%、保護者は94%、教職員は100%である。また、「友達の気持ちを考えて行動している」と回答した児童は91%、保護者は95%、教職員は100%である。「学校に行くのが楽しい」と回答した児童は87%、保護者と教職員は100%と、数値に若干の差がある。しかし、いずれの項目も目標を達成している。	A	月目標の周知を、道徳の時間や日常生活の中でより一層徹底していく。子ども達の行動をよく観察し、適切な声かけを行う。 教育相談を教育課程で定められたもの以外にも随時子ども達の様子を見て行えるようにする。子ども達の気持ちに寄り添って、温かく相談できる雰囲気作りに努める。	・心の教育(品格教育)はよくできているので、引き続き実践してほしい。
4 地域を生かした教育の推進 ・地域資源や人材を生かした生活科・総合的な学習の計画・実践	・地域資源や人材を生かした生活科・総合的な学習の時間の計画、実践を行う。	・「地域の人に教えてもらった、清梁園などの交流を行ったりすることは楽しい」という回答を90%以上にする。 (児童アンケート)	「米づくり」「いもうえ」「環境整備」「読み聞かせ」等で地域の人から多大な支援を受けている。打ち合わせ等の連絡を電話や訪問で密にする。学校との活動方針や子どもへの配慮事項等をきちんと伝え活動が充実するようにした結果、91%の児童が「地域の人との交流が楽しい」と回答しており、概ね目標を達成することができた。	A	これからも、子どもの感想や礼状をきちんと届け、取組の継続を図る。また、各教科・クラブ活動等の指導において、子ども達の興味・関心に基づいた活動ができるようにしていく。	・地域との交流はとてもよくできているので、このまま頑張してほしい。
5 幼小中一貫教育の推進 ・各種教育活動(英語特区の取組等)を通して園児・児童・生徒及び教職員の交流促進	・幼小中一貫教育として、維新幼稚園・昭和小学校・昭和中学校と連携し、事業を推進する。	・「中学校区で幼小・小小・小中連携をして良かった」という回答を90%以上にする。 (児童・保護者・教職員アンケート)	維新幼稚園・昭和小学校・昭和中学校と計画に沿った交流授業を実施することで、子ども達に多様な学びの場を提供することができている。アンケート調査の「中学校区で連携をして良かった」という回答は、児童の87%、保護者や教職員の100%が肯定的な回答をしており、ほぼ目標を達成することができた。	B	アンケート調査で、連携に少し否定的な回答をしている児童がいるので、個別に対応するとともに、各活動を考察して今後の活動に生かしていくようにする。	・小規模校だと、どうしても集団の中での切磋琢磨ができにくいので、主体性をもった児童を育てるためにも、幼小中一貫教育や学校間連携に継続して取り組んでほしい。